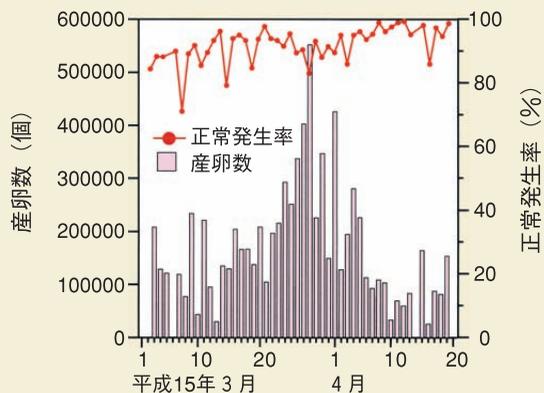


正確で再現性の高い実験を行うためには、健全な実験材料を用いることが重要です。健全な実験魚を確保するためには、できるだけ好適な環境で親魚を養成する必要があります。海生研では、親魚のストレスを軽減するためのさまざまな工夫を行っています。壁の色や採光方法を十分考慮した水槽で、適性な収容密度のもと、食性や卵質向上を考えた餌を与えて親魚を飼育しています。その結果、産出される卵の正常発生率、孵化率、その後の生残率を高く保つことができ、健全な実験魚を安定生産することができます。



正常発生率の高い受精卵が得られている柏崎天然マダイ3歳魚の産卵例  
(5トン水槽に当歳魚から飼育した雌5, 雄1尾を収容)

財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで「大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明」「取放水域の環境調和技术の開発」「原子力発電所等周辺海域の海洋放射能調査」等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第22号

平成17年1月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎ (03) 5210-5961  
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎ (0470) 68-5111  
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎ (0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。  
<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

## 海の豆知識

Vol.22

??? 魚のことわざ ???



財団法人 海洋生物環境研究所

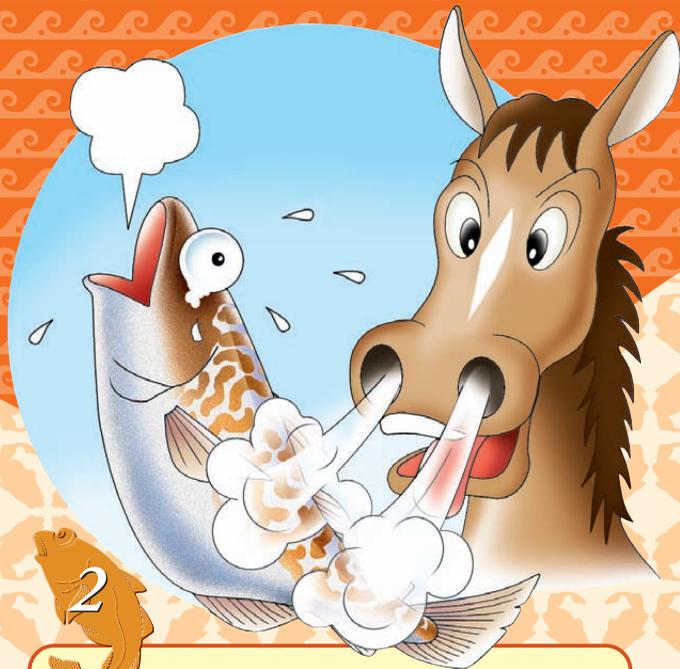
# 魚のことわざ

(その21)

## —タラ—

海とその生物にまつわる<sup>ことわざ</sup> 諺や格言についてお話ししましょう。

今回のテーマは鱈(タラ=タラ目=タラ科)です。魚偏に雪と書くのは初雪の後に獲れだすからです。わが国において漁獲される主なタラ類は、マダラ、スケトウダラ、コマイの3種類です。いずれも鮮魚や切身、塩干品として利用されます。マダラの旬は冬で、特に厳冬期が美味です。白身で特有の光沢があり淡泊な味は、塩焼き、鍋物などの和食だけでなく、バター焼き、ムニエル、フライなどの洋風料理にも合います。スケトウダラの身は、ほとんどすり身の原料となり、かまぼこ、竹輪、魚肉ハムなどのさまざまな練り製品に利用されています。卵巣は塩蔵して「たらこ」になり、さらに唐辛子で調味して「明太子」として食されます。



### 「鱈腹」

タラの胃袋は大きくて、手(口)当たり次第何でも食べることから、その食性になぞらえて“腹一杯に”の意味。



### 「鱈汁と雪道は後がよい」

鱈汁は煮込むほど肉が締まり骨離れもよく出汁もよくなる。雪道は人が大勢通った後が歩きやすく、自分から進んで雪を掻きながら歩くことはない。「鱈汁」を「とろろ」「鯨汁」に置き換えていうこともある。



### 「鱈は馬の鼻息でも煮える」

鱈の身は柔らかく、水分が多いので煮えやすいことをいった言葉<青森県上北郡・宮城県史>。「鱈は馬の鼻息で煮る」とも言う。“鼻息”は一つの形容で極く弱い火のこと。